



ワークショップ 前

1. 育てたい生徒像

- 資料を適切に取り取り、歴史的事象を多面的・多角的に読み取ることができる力を育てる。(教科書記述を鵜呑みにしない思考力、解釈する力)

2. 単元(本時)の授業の目標

- なぜリンカンが奴隷解放宣言を出したのか。

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

- A なぜリンカンが奴隷解放宣言を出したのか。
- B 奴隷解放宣言にはその後のアメリカにとってどのような意義があるか。

【Connections】

- C 奴隷解放宣言によって本当に黒人奴隷は本当に解放されたのか。
- D リンカンのいう奴隷解放宣言の目的『連邦を救う』とはどのような意味か。

【Ideas】

- E リンカンはなぜ奴隷解放宣言を出したのか。
- F 奴隷解放宣言と南北戦争とはどのような関係にあるか。

ワークショップ 後

1. 育てたい生徒像

- 資料を適切に取り取り、歴史的事象を多面的・多角的に読み取ることができる力を育てる。(教科書記述を鵜呑みにしない思考力、解釈する力)

2. 単元(本時)の授業の目標

- アメリカの建国の理念における理想と現実の限界の打破に、リンカンの政治がどれほど作用したかを考え、自分の考えを確かな根拠をもとに述べるができる。

3. 授業の中での具体的な問い

【Extensions】

- ① 南北戦争以前のアメリカは「理念の共和国」が実現されたかという点でどのように評価できるか。
- ③ リンカンの政治は、「理念の共和国」の限界の打破にどの程度作用したか。

【Connections】

- ①-3 アメリカは『自由』や『平等』を理念としたにもかかわらず、なぜ先住民や黒人はその対象から除外されたのか。
- ①-4 なぜ『自由』や『平等』が建国の理念とされたのか。
- ①-5 先住民や黒人が国家の理念から除外されたアメリカならではの理由は何だろうか。
- ② 南北戦争における奴隷解放宣言とは何だったのか。
- ②-2 リンカンが大統領に就任したことでなぜ南部の多くの州が合衆国から離脱したのか。
- ②-3 F 奴隷州であるにもかかわらずなぜ奴隷解放宣言の対象とならなかった州があったのか。
- ②-4 南部と経済的つながりの強いイギリスはなぜ戦争に介入しなかったのか。
- ②-5 リンカンがゲティスバーグの演説で『連邦』ではなく、『国家(nation)』を多用したのはなぜだろう。
- ③-2 C 南北戦争後、本当に奴隷は解放されたのか。
- ③-3 リンカンはなぜ黒人奴隷を解放したにもかかわらず先住民は抑圧したのか。
- ③-4 A なぜ奴隷制度はなくなったのに差別は続いたのか。
- ③-5 B リンカンの黒人奴隷に対する政治はどのように評価できるか。
- ③-6 リンカンの先住民に対する政治はどのように評価できるか。

【Ideas】

- ①-1 アメリカは独立に際し、どのような国をつくることを理念としていたか。
- ①-2 アメリカ独立後の国土拡大はどのように進んだか。

- ②-1 A・E リンカンが奴隷解放宣言を出したのはなぜだろう。
- ③-1 F 南北戦争後、黒人奴隷たちはどうなったのだろうか。

ワークショップを通した気づき+NEXT STEP

1. 深めたい、解決したいと思っていたこと

- 生徒の常識を揺さぶり、いかに学びたい、知りたいという好奇心を立ち上げさせるか。また、この授業をさらに広く、アメリカの黒人差別の歴史を考えさせる授業にするにはどうすればよいか。

2. 改善のポイント

- **新たな気づき**：多角的・多面的に読み取らせたいと考えていたにも関わらず、教師が準備した資料というレールに乗せるだけの一面的な解釈にとどまっているのではないかということ。

How farの問いを用いることは生徒に選択肢を与え多面的に考えさせるとともに学びの必然性を与えるものになるのではないか。How farの問いを生かすためには、IをつなぐCの問いが生徒の知識を揺さぶるもので、多面的な思考ができるものにする必要があること。

How farの問いはその単元を超えて問うことができる問いに深化する可能性が高いこと。

- **改善のポイント**：How farの問いを取り入れることで生徒主体の授業構造にすること。

3. 新たな問い～モヤモヤ感・先生方と共に考えたいこと

- How farの問いに多面的・多角的に答えるためにはCの問いをどのように構築すればよいか。
- How farの問いをどのような形にすると、単元を超えて問える問いになるか。

Cの問いの具体化

	問いかけの意図 (活用できる疑問詞・接続詞)	評価の対象とする内容	具体的な問い
1	本当か、そもそも What	批判的な思考により、与えられた前提を問い直している。	<ul style="list-style-type: none"> • 南北戦争における奴隷解放宣言とは何だったのか。 • 南北戦争後、本当に奴隷は解放されたのか。
2	そう言える理由・ 判断の根拠 Why	考えの根拠が示され、考えや論が論理的に関係づいている。	<ul style="list-style-type: none"> • なぜ『自由』や『平等』が建国の理念とされたのか。
3	仮定と反事実的推測 If, If not	仮定によって、条件や状況を設定し推量の質を高めている。	<ul style="list-style-type: none"> • 南部と経済的つながりの強いイギリスはなぜ戦争に介入しなかったのか。
4	～にもかかわらず Even though	異質な考えや矛盾等を取り入れることで、考察をより深めている。	<ul style="list-style-type: none"> • アメリカは『自由』や『平等』を理念としたにもかかわらず、なぜ先住民や黒人はその対象から除外されたのか。 • 奴隷州であるにもかかわらずなぜ奴隷解放宣言の対象とならなかった州があったのか。 • リンカンはなぜ黒人奴隷を解放したにもかかわらず先住民は抑圧したのか。 • なぜ奴隷制度はなくなったのに差別は続いたのか。
5	～なら、 ～が言えるだろう If then, If not then	前提に基づいて、新たな解釈や意味を付加したり、その幅を広げたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> • 先住民や黒人が国家の理念から除外されたアメリカならではの理由は何だろうか。
6	関係性の理解・発見 What ⇄ Why ⇄ How	関係性を理解したり、発見したりすることで、見いだした意味や内容を言語化している。	<ul style="list-style-type: none"> • リンカンが大統領に就任したことでなぜ南部の多くの州が合衆国から離脱したのか。 • リンカンがゲティスバーグの演説で『連邦』ではなく、『国家 (nation)』を多用したのはなぜだろう。
7	その他		<ul style="list-style-type: none"> • リンカンの黒人奴隷に対する政治はどのように評価できるか。 • リンカンの先住民に対する政治はどのように評価できるか。